

# 政 策 16

～緑と花に親しむことができるようにします～

## 後期基本計画における「めざそう値」等一覧

### 【めざしたい将来像】

生きものやみどりと共に暮らすために、みどりの市民力による協働を推進します。そして、人と自然を大切に思いやりの心もち、豊かで潤いのある生活ができるまちを実現します。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	前期基本計画		現状値	後期基本計画		
	13年度	19年度	24年度	25年度	32年度	
緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合	—	—	22.0%	—	21.4%	25%
	21.1%	22.7%	20.6%	22.0%		

### 【めざそう値(32年度)設定の考え方】

4人に1人が満足することをめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
	13年度	19年度	24年度	25年度	32年度
里やまボランティア活動団体数	—	—	—	16団体	23団体
	3団体	7団体	13団体	14団体	

### 【めざそう値(32年度)設定の考え方】

里やまボランティア活動の成果として、土地所有者及び関係者の理解を得た樹林地から、市民緑地等による公開をめざす。(12団体+1団体×11年=23団体)

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
花いっぱい運動活動団体数	—	—	—	—	80団体	101団体
	30団体	59団体	85団体	88団体		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

花いっぱい運動の成果として、多くの市民が関わる、花であふれたまちなみが、地域の宝物となることをめざす。(毎年、加入団体数を3団体として考えている。68団体+3団体×11年=101団体)

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
公園緑地活動団体数	—	—	—	—	158団体	180団体
	—	129団体	147団体	149団体		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

今までの実績値から毎年度3団体の増加をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合	—	—	—	—	12%	18%
	—	—	6.2%	8.2%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

生きものやみどりと共に暮らすために、みどりの市民力による協働事業を更に推進し、豊かで潤いのある生活ができるまちをめざす。意識指標として現状値の3倍をめざす。

# 政策16

## 緑と花に親しむことができるようにします

### 1. 現況と課題

平成17年度に調査した結果では、本市の緑で覆われた面積は約1,880haで、市全体面積の30.6%となっており、7年度の31.8%から若干減少しています。最も面積が大きいのは農地で、次いで、樹林地・草地の順となっています。本市の緑を代表する地区として、21世紀の森と広場周辺、江戸川河川敷などがあります。逆に、緑が比較的少ない地区は、常磐線・新京成線沿いの住宅地を含む都市的な地区です。

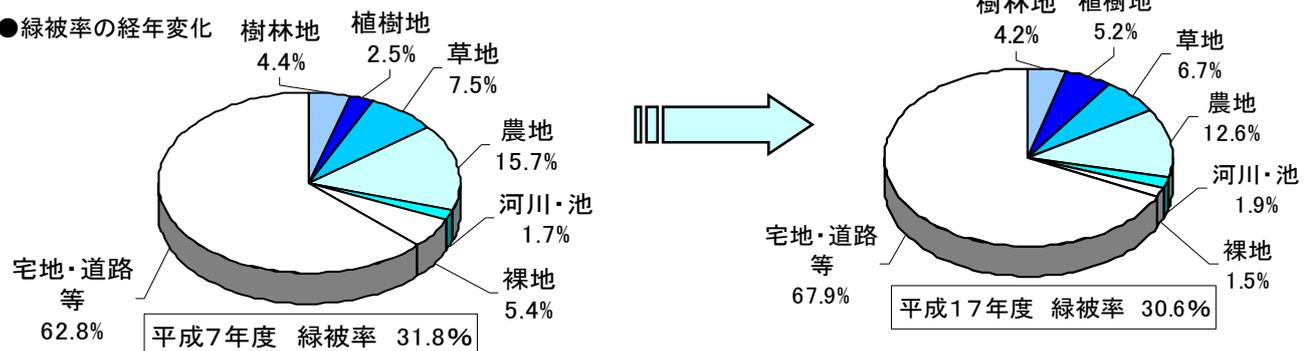
市民インタビューなどで、松戸市の良さを聴くと、「緑の豊かさ、自然条件の良さ」をあげる方が大変に多く、都心に近い割に、緑が豊かであるというのが特徴です。しかし、市民意識調査によれば、「緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合」は、平成13年度の21.1%から24年度の22.0%となっています。緑の量の確保のみでなく、実際に緑や花に親しむ機会を増やす質の向上が望まれています。

今後は、市民と行政の協働により、みどりの担い手を育てるなど、市民と行政が一体となった緑地の保全や緑化の推進が課題となっています。

#### 【特筆すべきニーズの変化】

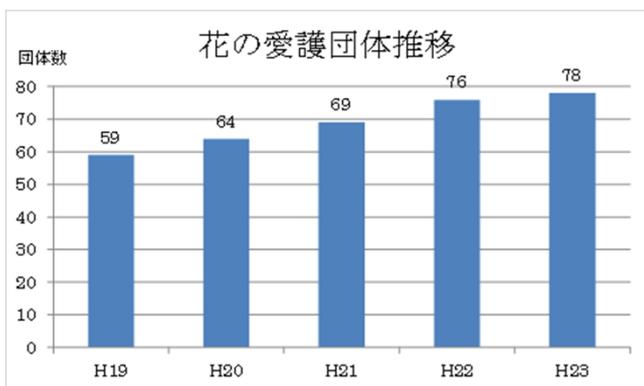
- ① 生活に潤いを求めるため、緑の多い住環境で暮らしたいと思う人が増えています（ニーズの増）
- ② 歩ける範囲のところに公園などがあり、近所の人と憩うことができるような日常生活が望まれています（ニーズの増）

#### ●緑被率の経年変化



出典  
松戸市緑被現況調査報告書

#### ●花の愛護団体推移



緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%

出典 松戸市市民意識調査（平成24年度）

#### ●概要

花いっぱい運動の一環として、公共用地で花壇活動を行っている団体に対して、花壇の整備や技術指導、花の苗や種の配布など支援を行い、市民の皆さんに花壇の維持管理をお願いしています。現在（平成24年10月）88団体の花の愛護団体の皆さんが花壇を美しく維持するために、日々の手入れや水遣り等熱心に活動しています。



20世紀ヶ丘花づくり部



ケヤキクラブ

## 2. 施策の展開方向

緑の基本計画（平成21年3月改定）をもとに、防災・環境保全・レクリエーション・景観形成といった緑の多面的機能を向上させ、緑地の保全、公園緑地の整備、緑化の推進を行い、市民が緑や水辺に触れ合うことのできるネットワークを形成していきます。

市内全域の樹林地をこれ以上減少させないため、樹林地等の土地所有者と連携し、多様な制度や手法による緑の保全に取り組んでいきます。条例による「保全樹林地地区・特別保全樹林地地区」の指定に努めると共に、矢切の斜面林などを積極的に、法による「特別緑地保全地区」に指定していきます。

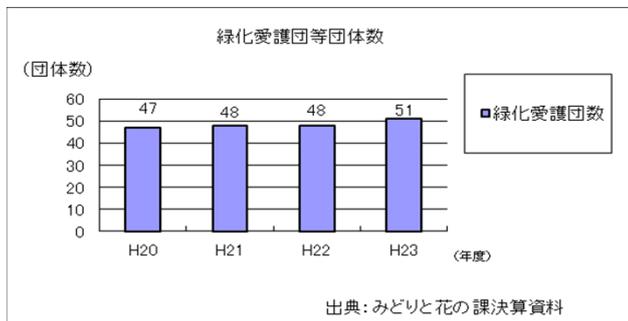
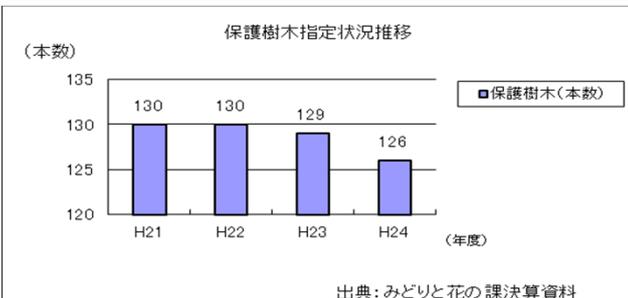
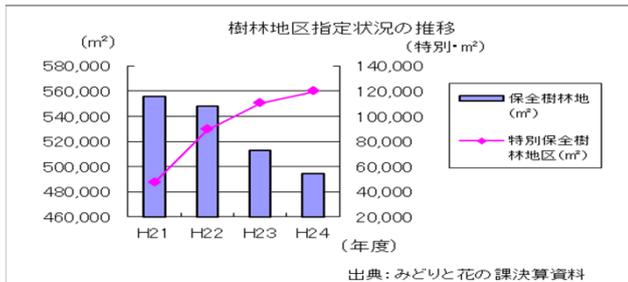
また、樹林地・公園等の資源を有効に活用するために、市民や市民団体を中心とした多様な人々との協働に積極的に取り組み、緑のイベント・講座等を充実させ、みどりの担い手づくりに努めます。

## 3. 施策を推進していく上での課題

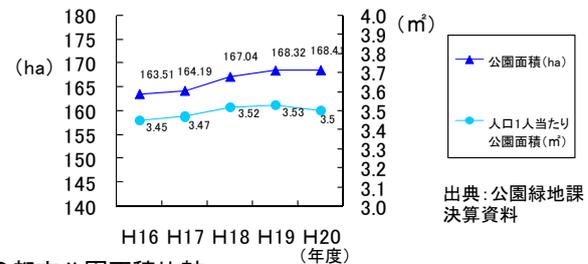
みどりの条例による地区指定や法による「特別緑地保全地区」について積極的に指定に努めてはいるが、地権者の協力がなかなか得られない状況となっています。また、市民と行政が一体となった協働による緑地の保全や緑化の推進に努めてはいるが、活動団体の増加は見られるものの、思うようには増加せず、高齢化が進んできています。

### 【特筆すべき松戸の強み・弱み】

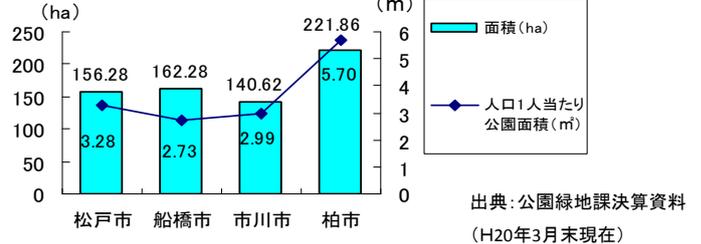
- ① 身近な緑化活動をするボランティア組織が、多く活動しています（強み）
- ② 都市化のため、個人で樹林地や農地を相続し、維持することが難しくなっています（弱み）



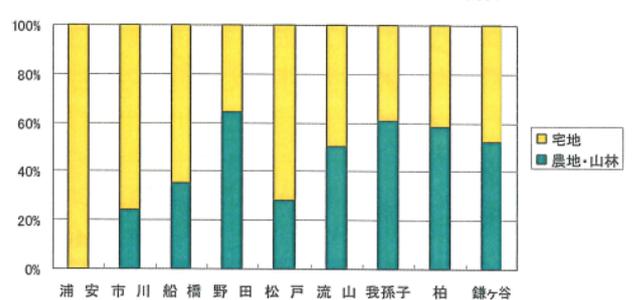
●公園面積及び一人当たり公園面積の推移



●都市公園面積比較



■平成17年度 東葛・葛南地区の農地・山林と宅地の割合



### 【里やま講座プロジェクト】

市民と行政の協働で推進する、みどりの担い手づくりの活動で、講座修了者による「里やま応援団」が5団体発足するなどの実績があり、ボランティア団体の交流・連携も活発です。

- ・公園愛護活動団体数 --- 104
- ・花の愛護団体数 --- 104 (河川関係などを含む)
- ・里やまボランティア団体数 --- 14



